

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																								
YIC京都ペット総合専門学校	平成25年3月25日	村田 忠男	〒600-8236 京都府京都市下京区油小路通塩小路下る西油小路町27 (電話) 075-371-4044																								
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																								
学校法人京都中央学院	平成19年1月22日	井本 浩二	〒600-8236 京都府京都市下京区油小路通塩小路下る西油小路町27 (電話) 075-371-4040																								
分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士																							
商業実務	商業実務専門課程	ペット総合科	平成26年 文部科学省告示第6号	-																							
学科の目的	<p>専門知識・技術を教授するだけでなく、技術教育を通じての人間教育を行うことにより、良識ある社会人として必要な資質を養い、地域社会の発展に貢献できる心豊かなペット業界のスペシャリストの養成を目的とする(教育理念)。具体的には、即戦力ではなく、変わり続ける時代のなかで、専門的知識・専門的技術を十分持ちながら、常に変遷する社会に対し柔軟に対応するため、就職後も技術を研鑽し知識を蓄え、変わらずに人を癒すことのできる資質を備え、職業人としての使命感をしっかりと確立した人物を教養する。</p> <p>動物看護科においては、動物病院で必要とされる実践的かつ専門的な技術・知識だけでなく、人と動物の共生社会の実現のために正しい知識と高い倫理観を持つ人材を育成する。さらに、職業人としての使命感を持って、利他の精神で働くことに社会的意義を感じられる人間力を育成することにも注力し、将来動物看護業界の指導的立場やリーダーとなる人材の育成を目的とする。</p>																										
認定年月日	平成27年 2月25日																										
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																				
2年	昼間	1,980時間	1020時間		960時間																						
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																						
160人	143人	2人	8人	20人	28人																						
学期制度	■1学期: 4月1日～9月30日 ■2学期: 10月1日～3月31日		成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 出席率80%以上、ペーパーテスト及び実技 成績: 秀(100-90) 優(89-80) 良(79-70) 可(69-60) 不可(0-59)																							
長期休み	■学年始: 4月 1日～4月6日 ■夏季: 7月24日～8月31日 ■冬季: 12月23日～1月10日 ■学年末: 3月10日～3月31日		卒業・進級条件	出席率: 80%以上 成績: 60点以上(100点満点) 学費の完納																							
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 本人及び保護者への連絡を密にし、本人との面談や場合によっては保護者を含めた面談を行い、状況把握と指導を行う。都度指導記録を残す。		課外活動	■課外活動の種類 学園祭実行委員、京専各体育大会等への参加(バレーボール、卓球等)ボランティア活動(地域清掃、献血、留学生交流)、部活動、同好会活動、オープンキャンパスボランティアスタッフ ■サークル活動: 有 ■国家資格・検定/その他・民間検定等 (平成31年度卒業生に関する令和2年5月1日時点の情報)																							
就職等の状況※2	■主な就職先・業界等(平成31年度卒業生) ペットショップ、美容サロン、動物病院 ■就職指導内容 担任とキャリアサポート室スタッフを中心に、就職ガイダンス(自己分析、企業研究、プレゼンテーション)や個人面談、企業訪問、企業説明会を実施し、希望する企業への就職をバックアップする。 ■卒業生数 46 人 ■就職希望者数 43 人 ■就職者数 43 人 ■就職率 : 100 % ■卒業生に占める就職者の割合 : 93.5 % ■その他 ・進学者数: 0人 (平成30年度卒業生に関する2019年5月1日 時点の情報)		主な学修成果(資格・検定等)※3	<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>JKCトリマーC級</td> <td>③</td> <td>29人</td> <td>25人</td> </tr> <tr> <td>JKCハンドラーC級</td> <td>③</td> <td>12人</td> <td>12人</td> </tr> <tr> <td>愛玩動物飼養管理士1級</td> <td>③</td> <td>19人</td> <td>13人</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。          ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの          ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの          ③その他(民間検定等)          ■自由記述欄</p>				資格・検定名	種	受験者数	合格者数	JKCトリマーC級	③	29人	25人	JKCハンドラーC級	③	12人	12人	愛玩動物飼養管理士1級	③	19人	13人				
資格・検定名	種	受験者数	合格者数																								
JKCトリマーC級	③	29人	25人																								
JKCハンドラーC級	③	12人	12人																								
愛玩動物飼養管理士1級	③	19人	13人																								
中途退学の現状	■中途退学者 5名 平成31年4月1日時点において、在学者 116名(平成31年4月1日入学者を含む) 令和2年3月31日時点において、在学者 111名(令和2年3月31日卒業生を含む) ■中途退学の原因 進路変更 ■中退防止・中退者支援のための取組		■中途退学率 4.3 %																								
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 ・特待奨学金制度(一般常識、面接、書類審査によりSABランクの特待生を選抜)初年度学費¥よりS:学費20万円免除、A:10万円免除、B:5万円免除 ・ファミリーサポート制度(YICグループ校の在学または卒業生に親、子、兄弟姉妹がいる者n太子初年度学費より5万円免除) ・ひとり暮らしサポート制度(通学困難者で下宿をせざるを得ない者に対し毎月5千円補助) ・就学支援制度(大学・短大・専門学校卒業&見込生、社会人経験3年以上であり、本校に入学を希望する者に対し、初年度学費より10万円を免除) ■専門実践教育訓練給付: 給付対象 2名 ■前年度の給付実績者数: なし																										
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無																										
当該学科のホームページURL	URL: <a href="https://www.yic-kyoto.ac.jp/pet/">https://www.yic-kyoto.ac.jp/pet/</a>																										

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

- ・教育目的に沿った教育課程編成、教育水準とする。具体的には、業界・社会の要請を的確に把握し、職業に必要な実践的・専門的な能力を育成するため、企業と密接な連絡をとりつつ、本校が設定した卒業生の技術レベル、および人間力の醸成に注力する。
- ・講義・授業の計画(シラバス)は、本校の教育の基幹をなすものであり、本校の教育理念に沿って教育を行い地域社会、学生、保護者に対して、本校が社会に送り出す学生の質を規定(保障)するものであると位置づける。
- ・入学時の基礎学力不足、および学力差の中で効率的・効果的な授業を行うため、必要に応じ、上記科目とは別に、入学前授業、基礎学力対策特別授業を行う。
- ・人間力、とくにコミュニケーション力、接客技術、その他職業人として必要な働く意欲を高めるための学習は、課外のキャリア特別授業や職業人を招いての講話だけでなくあらゆる行事を含めた学校生活の中で醸成するものである。
- ・斯界のスペシャリストによる職業人講話、技術指導、ボランティア活動、インターンシップ、就業体験その他地域社会・業界との関連により学ぶことの意義と学習意欲の向上につなげる。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

- ・機関企業等からの提言・意見を反映し、職業実践的な教育を行うための、教育課程編成における諮問機関である。
- ・学校運営から独立した機関であり、理事会直結の諮問機関とする。
- ・臨時委員会は、各種検定資格の内容変更・新技術の導入・業界の新しい動向により教育課程編成を変更・追加が必要になった場合などに委員の要請により開催する。必要に応じ当該関係者の意見を聴取することもある。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和2年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
柴山 隆史	公益社団法人滋賀県獣医師会 会長	平成31年4月1日～ 令和3年3月31日	①
森 尚志	公益社団法人京都市獣医師会 会長	平成31年4月1日～ 令和3年3月31日	①
新谷 嘉成	一般社団法人ジャパンケネルクラブ 近畿ブロック協議会 副会長	平成31年4月1日～ 令和3年3月31日	①
村田 忠男	YIC京都ペット総合専門学校 校長		
飛田 隆	YIC京都ペット総合専門学校 教務課長		
山根 大助	YIC京都ペット総合専門学校 内部監査(IR準備)室 室長		
細田 元一	学校法人京都中央学院 本部長		

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回 (5月、11月)

(開催日時)

第1回 令和1年5月22日 15:15～17:00

第2回 令和1年11月20日 13:30～15:30

第1回 令和2年8月26日(予定)

第2回 令和2年11月中旬～12月上旬(予定)

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記

教育活動:

- ・簡単な計算、文章、ITスキルはもう少し欲しい。Powepointでこれを作っておいてということが出来ない。語学力も欲しい。海外の方が来られた際に道案内等が出来るとなお良い。  
→一番の課題は授業に取り入れた際の学生のレベル差である。また、教員が必要性をあまり感じていないことも課題である。語学等日常的に学ぶきっかけを学校でつくる必要がある。
- ・新入社員を見ているとコミュニケーション能力が低い。理論・実習中心ではあるがコミュニケーション能力、人間力を高める指導カリキュラムを組んでいただきたい。特に電話対応能力が著しく低い。  
→キャリア基礎等の科目がある。単位認定が実務に繋がっていないことが課題である。
- ・インターンシップでの目的意識を明確に指導していただきたい。意識の低い学生が多いと感じる。せっかく実習に来るのであるから喜びを掴んで帰ってほしい。  
→知識、技術、人間力が重要と教育理念にもうたっており、2年間で培えるよう努める。  
実習先でも現場目線での学生指導をお願いしたい。

学修成果:

- ・35歳までのキャリアを考え、長く続けてもらえる人材を育成してほしい。  
→責任感も踏まえ、人間力の育成に力を入れる。教員の力量も求められるが業界との連携が必要である。卒業して終わりではなく卒業後も 業界と連携して育成を継続したい。
- ・ペット業界の離職率に関しては雇う側の資質も大きく求められている。受け入れ側の教育の質が低いと離職につながる。業界としての変化が必要。  
→離職理由の一番は人間関係である。労働条件や就労環境に関しては事前に調査し、課題を抽出する。

教育環境:

- ・飼育動物を持ち帰ることで学校外の時間に動物を観察することは非常に重要。  
普段の生活から動物に気を使える学生を育てる良い機会になる。しかしながら学生にとって過度のプレッシャーにならないよう気をつける必要がある。持ち帰り1泊、引渡し時に申し入れをするという流れを徹底することが必須。  
→2019年の年末年始から飼育動物を学生に持ち帰らせ、様子を見させる取り組みを実施する。普段の変化を観察させる。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

ペット分野の職業に必要な実践的な能力は、業界の最新技術、現場の技術者による実践的技術、業界の動向等、企業等との密接な連携が必須であり、職業教育の質が確保できるとして、適宜企業側から最新の技術教育に対する学校への講師派遣、あるいは企業における技術教育等を行う。連携の効果をより確かなものとするため、本校と企業、各協会が相互に基本方針を確認し、連携の協定書を結ぶ。具体的な実習・演習計画、授業方法、学修成果の評価、講師(担当者)等については連携の協定書締結時に確認する。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

校内の授業・実習などで修得した知識や技術等を企業及び各種団体などの各施設や現場で利活用して実践力を養成しつつ、高い評価が得られる職業社会人として必要なスキルや多様な能力が求められる実態を学生本人が把握をし、そのニーズを見極め自身の醸造と今後の学習において自己課題を設定する機会としている。

実習・演習等においては、各科目のシラバスにより授業を進め、授業終了後には実施した内容をクラウド上の授業報告書に記入し、他の教員との間で情報共有を行う。

各定期試験において、指導者より出題される課題(ペーパー試験、実技試験等)を実施し評価していただく。この評価を基に、単位認定・卒業判定会議にて最終単位認定を行う。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
水生生物 I	水性動物の基本を理解させ、ペットショップの売り場における実践力を身につけさせる。 アクアリウムの中でも一般的な鑑賞魚や水草を学び、熱帯魚や水草にとっての環境(光・酸素・二酸化炭素など)を学ぶ。 ・熱帯魚の種類を知る ・水生生物特有の病気について学ぶ ・日本原産の観賞魚と海外産の観賞魚の歴史について学ぶ	Fish・House Reptiles
家庭犬訓練 I	犬とのふれ合いから、基本となる訓練を学ぶ。 犬のオーナーさんの現状を学び何を望んでおられるか、学生に理解させる。 基本的な犬との接し方とスポーツとしての犬の訓練を実践する。	バンフドッグスクール

家庭犬訓練Ⅲ	犬を良く知ること、専門的なしつけ学を学ぶ(家庭犬訓練の学科と実技内容を知る) 犬のトレーニングについての考え方・接し方・実技を学び、覚える。	Shine Dog Tutors
パピーケアⅠ	生後1ヵ月から1歳になるまでの基礎知識である しつけ・栄養・健康面についてを覚える。 飼い主との家族関係を踏まえ、アドバイスができる。	京都ドッグトレーニングスクール

### 3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

#### (1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規定に定められていることを明記

変わり続ける時代のなかで、専門的知識・専門的技術を持ち、社会に対し柔軟に対応できる人材を教育育てるためには、教員自身が常に研鑽を行い、美容分野の技術・知識を深化させるとともに指導力の向上、企業等との連携による研修等を通して時代に即応した実務能力(知識・技術・技能)の習得・向上に努めなければならない。

「学校法人京都中央学院教職員研修規程研修等」に基づき、校内外の研修については、年度計画に基づき学校が学習機会の提供等を行い、また自己申告により日程、費用等便宜を図る。特に授業力、担任力、等の指導力の向上についてはYICグループの人材育成計画に基づく教職員研修規程によりグループ内、校内外で計画研修を実施する。また、職業教育・キャリア教育財団、全国専門学校経営研究会、京都府各種学校・各種専門学校協会(京専各)等が実施する研修にも積極的に参加させる。

美容分野の時代に即した実務能力については、企業等が主催・実施する研修会への他、関係企業との連携や教育課程編成委員会等の意見を反映し、個別企業に教員研修を依頼、また資格取得などを奨励する。

#### (2) 研修等の実績

##### ① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名「JKC審査員義務研修会 (携企業等:ジャパンケネルクラブ)  
期間:2019年9月17日(火曜日) 対象:教員・JKCTリマー審査員  
内容:

- 講師:下村氏(JKCTリマー教士)
- ・プードルの子犬・老犬トレーニングにおけるポイント

研修名「JKCTリマー委員会 自主研修会 (携企業等:ジャパンケネルクラブ)  
期間:2019年10月8日(火曜日) 対象:教員・JKCTリマー  
内容:

- ・プードル犬種
  - ①モダンクリップ
  - ②スカンジナビア(テリア)
  - ③パピークリップⅡ
- ・各クリップについてモデル犬を使用しながらトリミング方法の実演講習

研修名「トリミング教員研修会」(連携企業等:一般社団法人 全国動物専門学校協会)  
期間:2019年8月22日(木曜日) 対象:トリミング教員  
内容:

- 1.全国専門学校協会主催 各種検定研修会
  - ・協会主催の各検定についての説明及び今後の実施・見直しについて
- 2.トリマー検定委員研修会
  - ・トリマー検定試験・サロントリマー検定試験概要説明と質問事項に回答する

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名「京都学校教育相談研修大会」（連携企業等：京都私立中高連合会カウンセリング協会）

期間：2019年8月6日（火曜日） 対象：教職員

内容：

大会テーマ「思いやる 分かちあう 慈しむ」

・講師：京都大学高等研究院特別教授 京都大学霊長類研究所・兼任教授理学博士

・松沢哲郎

分科会 発達障害児の母親の心理的負担と支援について

・講師：京都教育大学教育学部教授 内田利広

研修名「新任教員研修」（連携企業等：京都府専修学校各種学校協会）

期間：2019年10月～11月（3回） 対象：新任教員

内容：

・学生、教職員のための実践心理

・専修学校における職業教育について

・職業教育における授業の進め方

・レessonプラン作成

・職業教育にあたる教員のあるべき姿

(3) 研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名「JKC2020年度 大阪ブロック審査員義務研修会」（連携企業等：ジャパンケネルクラブ大阪ブロック協議会）

期間：2020年8月（未定） 対象：教員

内容：未定

研修名「JKC2020年度 近畿ブロックトリマー義務研修会」（連携企業等：ジャパンケネルクラブ近畿ブロック協議会）

期間：2020年9月（未定） 対象：JKCトリマー

内容：未定

研修名「JKCトリマー自主研修会」（連携企業等：ジャパンケネルクラブ）

期間：2020年11月（未定） 対象：トリマー教員

内容：未定

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名「京都学校教育相談研究大会」（連携企業等：京都府立学校教育相談研究会他）

期間：2020年8月（未定） 対象：教職員

内容：未定

研修名「新任教員研修会」（連携企業等：京都府専修学校各種学校協会）

期間：2020年11月（未定） 対象：新任教員

内容：未定

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

「専修学校における学校評価ガイドライン」で示された企業等と具体的な連携の視点から検証した自己点検評価について、企業と学校関係者からなる「学校関係者委員会」の評価・助言・提言を受ける。学校評価委員会においては、本校が行う自己点検評価の結果と根拠を示し、とくに職業実践的な教育活動に適したものであるかなど、当該年度の重点項目を中心に意見等をまとめる。結果を反映した実行計画を作成し、次年度の重点項目を定め、学校教育・学校運営を行い、本校の概念である「地域社会の発展に貢献する、地域の皆さんのための教育機関」の実現に注力する。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	1 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標
(2) 学校運営	7 管理運営 9 改革・改善
(3) 教育活動	2 教育の内容
(4) 学修成果	4 教育目標の達成度と教育効果
(5) 学生支援	5 学生支援
(6) 教育環境	3 教育の実施体制

(7) 学生の受入れ募集	5 学生支援
(8) 財務	8 財務
(9) 法令等の遵守	7 管理運営
(10) 社会貢献・地域貢献	6 社会的活動
(11) 国際交流	-

※(10)及び(11)については任意記載。

### (3) 学校関係者評価結果の活用状況

#### 教育理念・目標(人財育成)

・35歳時点でのキャリアを考えるのは非常に良い設定である。モデルケースの確立が出来れば現場で働いている人にとっても非常に役に立つ。学校、臨床現場ともに取組まないといけない課題である。

→ 35歳時点で中核的専門人材として活躍するキャリアステップを描いてはいるが、モデルケースの確立までには至っていないので進めていきたい。

#### 学生募集受入れ

・現場で働く上で難しい問題として動物アレルギーがある。実際に接触してから初めてわかることもある。また、程度の問題もあるがコミュニケーション能力が一番の課題。

→ ペット分野は学力よりもコミュニケーションが課題。生徒本人が喋るのではなく保護者が喋るケースも多い。

#### 国際交流

・自動車分野での留学生は多いがペット分野でも取り組んでみてはどうか。国として留学生にシフトしているのでそういう情報を発信するだけでも面白いかもしれない。HPの英語表記等。

→ 現時点でも留学生が数名在学している。自国に帰ってペット関連の仕事をするという。また、趣味としても注目されている。海外の富裕層に対して学校PRを計画していきたい。

### (4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和2年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
柴山 隆史	公益社団法人滋賀県獣医師会 会長	平成31年4月1日～ 令和3年3月31日	学会
森 尚志	公益社団法人京都市獣医師会 会長	平成31年4月1日～ 令和3年3月31日	学会
新谷 嘉成	一般社団法人ジャパンケネルクラブ 近畿ブロック協議会 会長	平成31年4月1日～ 令和3年3月31日	学会
丸山 帆夏	ダクタリ動物病院 京都医療センター	平成31年4月1日～ 令和3年3月31日	卒業生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

### (5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ) ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他( ) )

URL: <https://www.yic-kyoto-pet.ac.jp/>

公表時期: 2020年6月1日

### 5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

#### (1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の趣旨に則り、原則として、ガイドラインが推奨する内容(提供する情報の項目例)全てについて、ホームページ上にて情報提供する。教育活動、その他学校運営の状況、これらの結果は、企業、在学生、卒業生、保護者等関係者にホームページなどに公開・提供していることを、学校便り、オープンキャンパス、案内資料、企業説明会などで広く周知し、理解を得る。企業との連携による職業実践教育を行うためには、企業に対して本校の理念、教育活動の理解が前提であり、具体的な連携を計画する際の基本資料として提示・説明することで企業の協力が得られるものとする。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	学校の概要、目標及び計画
(2)各学科等の教育	各学科(コース)等の教育
(3)教職員	教職員
(4)キャリア教育・実践的職業教育	キャリア教育・実践的職業教育
(5)様々な教育活動・教育環境	様々な教育活動・教育環境
(6)学生の生活支援	学生生活支援
(7)学生納付金・修学支援	学生納付金・就学支援
(8)学校の財務	学校の財務
(9)学校評価	学校の評価
(10)国際連携の状況	
(11)その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他( ))

URL: <https://www.yic-kyoto-pet.ac.jp/>

## 授業科目等の概要

(商業実務専門課程ペット総合科) 2020年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当 年次・学期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業 等との 連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験・ 実 習・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			犬学・猫学	犬と猫の歴史・生態・習性や人との関係を覚える。 犬・猫本来の能力について覚える。	1前	30	1	○			○		○		
○			犬種・猫種学Ⅰ	犬・猫種の各グループ別、原産国、歴史、サイズなどを覚える。(JKC登録数上位、人気犬種を対象) 犬種・猫種による習性や特徴を覚える。	1前	30	1	○			○			○	
○			小動物概論Ⅰ	犬・猫以外での動物の生態を学ぶことにより、エキゾチックアニマルと呼ばれる分野の知識を覚える。 幅広い動物の生態を学ぶことで、動物のスペシャリストになる。	1後	30	1	○			○			○	
○			水生生物Ⅰ	アクアリウムの中でも一般的な鑑賞魚や水草を学び、熱帯魚や水草にとっての環境(光・酸素・二酸化炭素など)を覚える。癒しやインテリアとして需要が多くなっているアクアリウムの基本を覚える。	1前	30	1	○			○			○	○
○			解剖学	犬・猫を中心とした動物の体の仕組みを勉強し、肉食動物と草食動物、生活環境に適した生態毎の違いを覚える。 犬・猫を中心とした動物の体の構造、骨格筋系、呼吸器系・消化器系・循環器系・内分泌系・神経及び感覚器系の機能を理解し、肉食動物と草食動物、生活環境に適した生体毎の違いを覚える。 動物の体の仕組みを学ぶことで、飼育方法や病気などの他の分野の基礎を確実に答える。	1後	30	1	○			○			○	
○			公衆衛生	動物とよりよい関係を築く為に必要な、感染症や消毒方法などの知識を覚える。 衛生上の危害や発生を防止する分野の基礎を覚える。	1後	30	1	○			○			○	
○			動物関連法規	動物業界、動物医療の関連法規を覚える。 仕事をする上での法律を覚える。	1前	30	1	○			○			○	
○			グルーミング基礎学	グルーミングの必要性と目的、効果。グルーミングを行う上での犬体の構造、獣医学、衛生と消毒、各種専門用語を覚える。 ビジネスとして仕事をしていくうえで、グルーマーとしてお客様に満足していただける技術や心構えを身につける。 また、お客さまから信頼されるトリマーの知識を覚え	1通	60	2	○			○			○	
○			犬種別トリミング学Ⅰ	犬種別のグルーミング方法。トリミングの基礎であるベーシックを学習。短毛犬種、中型犬種、大型犬種など、犬種別のグルーミングを覚える。 ブラッシング・爪切り・耳掃除など基本的知識を身につけ、多くの犬種のベーシックができるようになる。	1前	30	1	○			○			○	
○			健康管理学	犬・猫の病気について、各コース共通に必要な知識を覚える。 犬・猫の病気について学び知識を身につける。	2後	30	1	○			○			○	
○			基礎看護学	動物関係の仕事に就く上で犬・猫の必要最低限の看護知識を覚える。 必要最低限の看護知識・応急処置法を身につける。	1後	30	1	○			○			○	
○			愛玩動物飼養管理学	愛玩動物飼養管理士試験【2級】に関連する内容を覚える。 愛玩動物飼養管理士2級の合格レベル、知識を覚える。	1通	60	2	○			○			○	



○		動物行動学Ⅰ	犬・猫種による行動の異なりから、成長段階にみられる行動を覚える。 それぞれの対応を学び、固体における基本的な行動の意義・機序を理解し飼い主指導に活かす。	1 後	30	1	○		○		○			
○		小動物飼育学Ⅰ	生態や習性の違う動物たちを飼育する時に気を付けないといけないことを学ぶ。 また、その動物についてを理解した上で、飼育動物の生活の質(QOL)の向上を考えることができるようになる。 一般的に飼育されている小動物たちの、適正とされる飼育ができるようになる。 主体性を持って、自らがその動物のことを考え、飼育環境改善を行うことができる。	1 前	30	1	○		○		○			
○		家庭犬訓練Ⅰ	犬とのふれ合いから、基本となる訓練方法を覚える。 犬のコントロール方法を覚える。	1 前	30	1			○	○			○	○
○		パピーケアⅠ	生後1ヵ月から1歳になるまでの基礎知識であるしつけ・栄養・健康面についてを覚える。 飼い主との家族関係を踏まえ、アドバイスができる。	2 前	30	1	○		○				○	○
○		グルーミングⅠ	基本的なグルーミング方法を覚え、技術を身に付ける。 トレーナー&アドバイザーコースは、2年次に受験予定であるAAVサリントリマー3級資格取得試験を意識した各犬種のグルーミングができる。	1 通	270	9			○	○			○	
○		実務研修Ⅰ	実際のペットショップ・動物病院に勤務を体験(研修)し、これを通して、専門知識を実社会においてどのように活かしていくべきか、今後の自分にとって何が必要かを考える能力を身に付けるとともに就職に繋げる。 (1)就職を考えさせ早期就職内定へ繋げる。 (2)ペット業界での自分の適性や仕事の内容について自己分析する。 (3)ペット業界への関心・就職への意欲を高め、日々の学校生活に対する意欲を高める。	2 前	30	1			○		○			○
○		キャリアデザインⅠ	就職活動に実践で活用できる内容を覚える。 就職内定100%	1 通	60	2	○		○				○	
○		キャリアデザインⅡ	就職活動に実践で活用できる内容の学習と習得。 就職内定100%	2 通	60	2	○		○				○	
○		ビジネス・マナー	接客対応の基礎『心づかい』『言葉づかい』などの実務知識を覚える。 基本的な接客マナーを身に付け、多方面からのスキルを覚える。	1 前	30	1	○		○					○
○		ビジネス電話	第1～3回授業については、サービス接客検定に向けての継続授業。 接客対応の基礎『電話対応』の実務知識を覚える。 基本的な電話対応マナーを身に付け、多方面からのスキルを覚える。	1 後	30	1	○	△		○				○
○		基本IT技術Ⅰ	コンピュータを利用した事務作業に必要な文書の作成やマナーについて学習。 必要な技術を効率良く行えるよう繰り返し練習する。 必要に応じたコンピュータの利用技術の取得。	2 前	60	2			○	○				○
○		基本IT技術Ⅱ	授業の必要性・概要・目的・目標についての説明・進め方 プレゼンテーションの作成 必要に応じたコンピュータの利用技術の取得。	2 後	60	2			○	○				○
○		総合学習Ⅰ	普段、学内では体験できない事を、外部の施設・イベントに参加をする。 外部の施設・イベントに参加をし、専門職者としての技術と人間力を高める。	1 通	60	2			○		○	○		
○		総合学習Ⅱ	普段、学内では体験できない事を、外部の施設・イベントに参加をする。 外部の施設・イベントに参加をし、専門職者としての技術と人間力を高める。	2 前	30	1			○		○	○		

○	美 容 I	各犬種の基本的なグルーミング・ベーシック・カット イング(カット技術・整毛技術)方法を覚え、技術方 法を身に付ける。	1 後	90	3				○	○				○	○
○	美 容 II	各現場で通用するトリミング技術方法を覚える。 新たな犬種についての美容に関する技術を覚え、1 年生から学んだ技術を後退させない。 時間短縮をより意識する。クリッピング時間の短縮。 JKC・トリマーC級ライセンス、AAV・サロントリマー 1級資格取得試験を意識した各犬種のトリミングが できる。	2 通	540	18				○	○				○	
○	犬 種 別 トリミング学 II	専門的な犬種別トリミング方法、クリップスタイルを 覚える。 より深く犬種を知り、犬種にあった専門的なトリミ ング方法の知識を覚える。	1 後	30	1	○				○				○	
○	トリマー 演習	JKC・トリマーC級ライセンス取得、AAV・サロントリ マー1級ライセンス取得のための知識(筆記試験対 策)、その他デザインカットの知識を身に付ける。	2 通	60	2	○				○				○	
○	犬 種 別 トリミング学 III	専門的な各犬種別トリミング方法を覚える。 1年時より深く犬種を知り、各犬種にあった専門的 なトリミング・カット方法を覚える。	2 通	60	2	○				○				○	
○	訓 練 I	家庭犬を深く知ること、しつけとは何か、飼い主が できる方法や飼い主が困る犬の問題行動の予防や 解決方法を覚える。 モデル犬と一緒に犬を飼うために必要なスキルと最 低限のしつけ方法を学び、覚える。	2 通	120	4				○	○				○	○
○	訓 練 II	ドッグ・スポーツを通して、犬とのコミュニケーション 力向上を行う。 社会で自立するための技術・知識の向上と社会貢 献ができる。	2 通	120	4				○	○				○	○
○	家庭犬訓練 II	2年次からの専門的なコース授業開始に向けて、犬 種を熟知し自分に相応するパートナーモデル犬種 を見極める。 訓練とはどんなことか、どのように行うのかを覚える 1頭以上のモデル犬に訓練を入れ、JKC競技会に 出場する。 犬を飼養する意義を考え、自分に合ったパートナ ーモデル犬を決定し、トレーナーとの絆を深めなが ら基本的なコントロール方法を覚え身に付ける。	1 後	60	2				○	○				○	○
○	家庭犬訓練 III	犬を良く知ること、専門的なしつけ学を学ぶ(家庭 犬訓練の学科と実技内容を知る) 犬のトレーニングについての考え方・接し方・実技を 学び、覚える。	2 通	120	4				○	○				○	○
○	パピーケア II	1年次の履修内容より深く専門的に、犬の生後1カ 月から1歳になるまでのしつけ・栄養・健康・飼育上 の注意点等を覚える。	2 後	60	2	○				○				○	○
○	ハンドリング	ハンドリングの方法と技術を覚える。 犬種のコントロール方法を理解し、犬をより深く愛せ るハンドラーになる。	2 前	60	2				○	○				○	○
○	グルーミング II	各現場で通用するグルーミング技術を覚える。 新たな犬種についての美容に関する技術を覚え、1 年生次で学んだ技術を後退させない。 時間短縮を一層意識し、クリッピング時間の短縮が できる。 JKCトリマーライセンス取得試験を意識した各犬種 のトリミングができる。	2 通	180	6				○	○				○	
○	愛 犬 飼 育 学 管 理	犬種についての基本的な知識を覚える。	1 後	30	1	○				○				○	
○	小動物概論 II	動物全般について(哺乳類・鳥類・爬虫類・両生類・ 無脊椎動物) 小動物全般について広範囲の専門的な知識を覚える	2 通	120	4	○				○				○	

○	小動物物販士検定	小動物の飼養方法・管理方法を覚え、顧客に対象動物の終生飼養を前提とした説明ができる。様々な動物の知識を広め、覚える	2前	30	1	○		○		○	
○	小動物物飼育学Ⅱ	ペットショップで取り扱われている小型動物・中型動物(哺乳類・鳥類・両生類・爬虫類等)やふれあい施設で飼養されている動物、日本の野生動物について、より知識を深め、アドバイザーとしての領域を広める。	2通	60	2		○	○		○	
○	水生生物Ⅱ	アクアリウムの実践に向けての知識を覚える 水草の取り扱いと熱帯魚の性質を知り、アクアリウムの組み立てからレイアウトの完成をさせる計画を立てる	1	60	2		○	○		○	○
○	水生生物Ⅲ	アクアリウムの管理・実践 水草の取り扱いと熱帯魚の性質を知り、アクアリウムの組み立てからレイアウトの完成をさせる。	2通	120	4		○	○		○	○
○	動物行動学Ⅱ	犬・猫の様々な情報を読み取り、問題となる行動を観察・記録・分析を実践し、解決方法を導く。 生体・生理的状態・環境刺激などの要因を分析したうえで、犬と飼い主の指導・問題行動の改善ができる。	2後	30	1	○		○		○	
○	愛玩動物飼養管理学特論	愛玩動物飼養管理士試験【1級】に関連する内容を覚える。 愛玩動物飼養管理士1級の合格レベル、知識を覚える。	2前	30	1	○		○		○	
○	小動物看護学	動物看護師から、ペットアドバイザーに知っておいてほしい小動物の疾病、それを防ぐための飼育方法等について学ぶ。 ペットショップで取り扱う代表的な小動物の生態・習性、飼養・保定方法、代表的な疾病を各小動物ごとに説明できる。 ペットショップでお客様に対して、各動物の起こりやすい病気を踏まえて紹介することができる。	2通	60	2	○		○		○	
○	犬種・猫種学Ⅱ	各グループの犬種の専門的な知識を覚える。 各犬種・猫種の習性や特徴を細かくスタンダードを分析し、覚える。	1後	30	1	○		○		○	
○	愛犬飼育管理学	犬種についての基本的な知識を覚える。	1後	30	1	○		○		○	
○	グルーミングⅡ	各現場で通用するグルーミング技術を覚える。 新たな犬種についての美容に関する技術を覚え、1年生次で学んだ技術を後退させない。 時間短縮を一層意識し、クリッピング時間の短縮ができる。 JKCトリマーライセンス取得試験を意識した各犬種のトリミングができる。	2通	180	6		○	○		○	
○	ペットマッサージ	アニマルベーシック/メンテナンスマッサージコース(学生用)の修了を目指した授業	12	60	2			○		○	
○	ペット経営学	ドッグ(ペット)サロン、生体販売店、ペット介護施設、しつけ教室等の店舗運営に直結する内容を覚え、将来店舗運営時に活用。 最新ペット業界の動きを常にチェックする。	12	60	2	○		○		○	
○	フードアドバイザー	フードアドバイザーとしての最低限必要な知識である栄養学、ペットフード、サプリメント類についてを覚える。	12	60	2	○		○		○	
○	小動物販売士	小動物の飼養方法・管理方法を覚え、顧客に対象動物の終生飼養を前提とした説明ができる。様々な動物の知識を広め、覚える	12	60	2	○		○		○	
○	ホリスティック	自然治癒力を高め、心と身体全体をとらえ、健康を管理する必要性と方法を覚える。 東洋医学を踏まえた指圧、各種マッサージの実技を身につける。 副作用の強い治療や薬剤の耐性、高齢犬に対する麻酔などのリスクが高く、より優しい治療を求める飼い主が多くなった中、マッサージなどの代替治療(ホリスティック)を学ぶことにより健康に対する知識を身につける。	12	60	2	○		○		○	



		○ イベントプロデュースⅡ	具体的なイベント活動の企画・運営を通して企画力・実行力・協調性など社会人基礎力をつける。イベントを企画する段階から時間軸のプロセスを経て、「最終的な目的達成」のために最高のパフォーマンスを発揮できるよう、イベントのノウハウや、プランニング方法等を実際のイベント運営を通して、具体的に学び、これからのイベントの方向性を探っていく。	2	30	1				○	○	○		
		○ 企業研究	就職を希望するペットショップ・動物病院等の調査法、インターンシップの依頼(電話・依頼文作成)、インターンシップに参加する前提とした目的・心構え・ビジネスマナー等を中心に、事前準備を行なう。インターンシップ終了後は、インターンシップを通じて得た知見や経験を体験報告をレポートにまとめ、インターンシップ報告書が作成できる。(交通費等の費用は原則自己負担) 自分自身の視点から調査・分析出来る能力を身につけ、就職につなげる。自己の職業適性や将来設計について考える機会を得ることにより、高い職業意識の育成を計るとともに、自ら職業選択の明確な基準軸を見つける。	1 or 2	60	2	○			○		○		
		○ ボランティア活動	各分野で活動する実践者によるオムニバス方式での講義をとおして、ボランティア活動の価値、意義、役割、実際の活動等について理解を深めた後に、実際にボランティア活動を行う。施設見学や実際のボランティア体験等を行う予定なので、シラバスの変更(施設との調整などにより)が行われることもある。 ・ボランティア活動はもうひとつの信頼を育むコミュニケーションであることを覚える ・ボランティア活動のリスクなどについても学び、専門職として関わることを前提とした学びの視点、実践活動を通じたスキルや知識を覚える ・主体的にボランティアに参加することができる人材になる	1 or 2	120	4				○		○	○	
合計			68科目			4,590単位時間(		153単位)						

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	必須科目41単位(1,230時間)および選択必須科目及び選択科目合わせて24単位(720時間)以上、及び選択科目1単位(30時間)計66単位(1,980時間)以上の履修 履修方法:ペーパーテスト、レポート、実技テストによる評価	1学年の学期区分
1学期の授業期間		15週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。